

『洋学史研究事典』を編集して

青木歳幸 (本事典編集委員長)

- ◆洋学史学会を軸として多様な分野からの執筆者221名が、385項目にわたって、5年間準備してきた『洋学史研究事典』を、お届けいたします。
- ◆洋学史研究は、内外の史料に恵まれ、大きな蓄積を持ちますが、とくに地域洋学史研究の進展が、内外に十分発信されていないという憾みがありました。そこで現状の打破と、現段階までの研究成果を反映させた新たな研究指針となるような事典の編集を企画しました。
- ◆本事典では、洋学史研究を研究篇(グローバル)と地域篇(ローカル)にわけて執筆し、地域篇では47都道府県の洋学史研究の現状と成果を一堂にみることが初めてできるようになりました。
- ◆研究篇では、人・モノ・情報の交流を意識して、オランダ東インド会社、ケンペル、シーボルトなど洋学研究に重要な人物・項目を網羅したほか、従来扱われなかった砂糖、異国からきた召使、鼈甲、金唐革、輸出漆器なども項目にあげました。通覧することで、さまざまな国際交流があったことがみえてきます。
- ◆本事典は、現代の洋学史研究者が一堂に会する機会ともなり、洋学史研究の現在を俯瞰できるものとなりました。今後、数十年先まで、2021年段階の洋学史研究の到達点を示す基本書として、洋学史研究の指針として、活用いただきたく思います。

洋学史研究事典

B5判・516頁・上製本・函入り

定価：14,300円

(本体13,000円+税10%)

ISBN978-4-7842-1937-7

《編集委員》

- 青木歳幸 (あおき・としゆき) 長野県生まれ。佐賀大学特命教授。
 海原 亮 (うみはら・りょう) 大阪府生まれ。住友史料館主席研究員。
 沓澤宣賢 (くつざわ・のぶかた) 秋田県生まれ。東海大学名誉教授。
 佐藤賢一 (さとう・けんいち) 宮城県生まれ。電気通信大学大学院教授。
 Isabel Tanaka - van Daalen (イサベル・田中・ファンダーレン)
 ユトレヒト(Utrecht)、オランダ生まれ。東京大学史料編纂所共同研究員。
 松方冬子 (まつかた・ふゆこ) 東京都生まれ。東京大学史料編纂所教授。

発行：思文閣出版 〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 / fax.075-531-0009 pub@shibunkaku.co.jp

冊数	冊	洋学史研究事典 定価 14,300円(税10%込) ISBN978-4-7842-1937-7	
お名前	tel	 本書 HP QR コード	
	e-mail		
ご住所	〒		
送本方法	【代引】(書籍代+消費税+送料800円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎		

洋学史学会 監修

青木歳幸、海原 亮、沓澤宣賢、佐藤賢一、イサベル・田中・ファンダーレン、松方冬子 編

洋学史研究事典

Encyclopedia for the Study of the History of "Western Learning"

グローバルとローカル、

2つの視点で洋学史研究の未来を拓く



2021年
10月刊行

思文閣出版

『本書の特徴』

◎グローバルな時代における洋学史研究の成果を盛り込んだ最新の研究事典。

◎各分野で活躍する研究者200余名による最新の研究成果を集大成。

◎地方史誌類の編纂事業や地域史研究の隆盛を踏まえ、全国各地に蓄積された洋学史の研究成果を収録。

◎研究篇(グローバル)と地域篇(ローカル)、ふたつの視座からの複眼的な編集。

◎各項目は1頁もしくは2頁で構成され、簡潔に研究情報を把握できる。各項目末には参考文献を収録。

◎付録として洋学資料の主要所蔵先を一覧できる「洋学関係資料所在目録」を収録。

◎人名索引には洋学に関係する外国人から地域で活躍した洋学者まで、総勢2,400名超を幅広く採録。

◎歴史研究を志す若い研究者はもとより、洋学史に関心、かかわりのあるすべての方へ、これからの研究の指針となる必備の書。

『目次』

総論	洋学史研究試探
Ⅰ	洋学の社会的基盤
Ⅱ	支えた人びと
Ⅲ	影響を与えたモノ
Ⅳ	普及した書物
Ⅴ	研究教育の場
Ⅵ	近世学芸から近代学術へ

総論 洋学史研究試探

【研究篇】

Ⅰ 洋学の社会的基盤

イエズス会／天正遣欧使節／慶長遣欧使節／オランダ東インド会社／日本商館／オランダ領東インド政庁／ネーデルラント貿易会社／平戸藩／長崎奉行／オランダ風説書／宗門改役／宗門改、類族改／商館長江戸参府／オランダ通詞／「鎖国」言説／長崎会所／本方貿易、脇荷貿易／禁制品／書物改め／抜荷／長崎問役／改暦／国絵図／長崎警備、蝦夷地警衛／江戸湾防備／蘭癖大名／医療宣教／幕末のコレラ／書物、出版(ヨーロッパ)／書物、出版(中国)／漢学、漢方医学／漂流と漂流記／ヨーロッパ諸国による海図作成と日本における沿岸測量／世界周航航海／新聞／居留地、税関／お雇い外国人／園芸／博覧会／異国からきた召使い

Ⅱ 支えた人びと

カスバル・シャムベルゲル／沢野忠庵／ケンペル／ツンベリー／シーボルト／ペリー／ビュルゲル／ティツィング／フィッセル／ヤン・コック＝プロムホフ／ロドリゲス／ドッフ／モーニッケ／ボンベ／ボードイン／ドンケル＝クルツイウス／ホフマン／フィッセルィング／オイレンブルク／アレクサンダー＆ハインリッヒ・フォン・シーボルト

Ⅲ 影響を与えたモノ

衣服／ガラス、ガラス器／陶磁器／西洋から輸入された絵画／視眼鏡と眼鏡絵／ワイン／砂糖／西洋料理、西洋菓子／ジャガイモ、薩摩芋／植物／たばこ／染織品／鼈甲、鮫皮、象牙／絨毯／金唐草／動物／医療道具、医科器械／人体模型／眼鏡、虫眼鏡、顕微鏡、望遠鏡／エレキテル／気象観測機器／天体測量機器／地球儀、天球儀、星図／時計、からり時計／伊能図／武器／輸出漆器／ヨーロッパに渡った日本の絵画／茶／蠟／人魚／火縄銃／地図／石炭／蒸気船／電信

Ⅳ 普及した書物

日葡辞書／ハルマ和解／ガランマチカ／英和対訳袖珍辞書／坤輿万国全図／ニューホフ「東西海陸紀行」／ゼオガラヒー／プリンセン／訂正増訳采覧異言／坤輿図説／海国図志／ケンペル「日本誌」／ティツィングが入手した日本の書物／シーボルト*NIPPON*／鎖国論／ドノウス「草木誌」／ヨンストン「動物図譜」／クーランテントルコ／厚生新編／マガゼイン／マートシカッペイ／西学書／パレとハイステルの外科書／解体新書／ラランデ／イベイ／ヒュージェニン／ホブソン

Ⅴ 研究教育の場

コレジオ、セミナリオ／蘭学塾／藩校／薬品会／薬園／ライデン大学／バイテンゾルフ植物園／天文方／蛮書和解御用／蕃書調所、開成所／正院翻訳局／長崎遊学／長崎海軍伝習所／エトベリ陸軍軍医学校／珍品コレクションから博物館へ／ウィーン万国博覧会／幕末のオランダ留学／幕末の遣外使節団／大学南校、開成学校／帝国大学／ミッションスクール

Ⅵ 近世学芸から近代学術へ

外科／解剖／内科／紅毛流外科から阿蘭陀医学へ／小児科／物理学／化学／種痘／養生、公衆衛生／本草学／博物学／植物学／薬学／鉱山学／冶金術、鑄造術／農学／砲術／軍事科学／反射炉／造船／航海術／天文学／治水／測量術(町見術)／和算、数学／西学／文法／言語学／キリシタン版の印刷／活版印刷術と新聞／絵画技法／写真術／ナポレオン伝／地理学／法学／統計学

【研究篇】



『本文見本』

(約40%縮小)

【地域篇】

302	東洋江戸の蘭学塾	東洋史	蘭学が記した「人身解剖学」を編成したという。また、岩波書店の増田寛也(1930)が「蘭学」を研究するに当たって、蘭学教育の発展の歴史について書いている。岩波書店の増田寛也(1930)が「蘭学」を研究するに当たって、蘭学教育の発展の歴史について書いている。岩波書店の増田寛也(1930)が「蘭学」を研究するに当たって、蘭学教育の発展の歴史について書いている。
303	東洋江戸の蘭学塾	東洋史	蘭学が記した「人身解剖学」を編成したという。また、岩波書店の増田寛也(1930)が「蘭学」を研究するに当たって、蘭学教育の発展の歴史について書いている。岩波書店の増田寛也(1930)が「蘭学」を研究するに当たって、蘭学教育の発展の歴史について書いている。岩波書店の増田寛也(1930)が「蘭学」を研究するに当たって、蘭学教育の発展の歴史について書いている。

『蘭学』(1930)が「蘭学」を研究するに当たって、蘭学教育の発展の歴史について書いている。岩波書店の増田寛也(1930)が「蘭学」を研究するに当たって、蘭学教育の発展の歴史について書いている。岩波書店の増田寛也(1930)が「蘭学」を研究するに当たって、蘭学教育の発展の歴史について書いている。

『蘭学』(1930)が「蘭学」を研究するに当たって、蘭学教育の発展の歴史について書いている。岩波書店の増田寛也(1930)が「蘭学」を研究するに当たって、蘭学教育の発展の歴史について書いている。岩波書店の増田寛也(1930)が「蘭学」を研究するに当たって、蘭学教育の発展の歴史について書いている。